

コロキウム

「踊る身体デザイン：ダンス研究からみるポストバウハウスの100年」

日本フンボルト協会関西支部では、バウハウス100周年を記念して、ダンス研究者中島奈那子さんをお招きし、対談とダンスパフォーマンスをあわせたコロキウムを企画しました。一般の方にも公開していますのでぜひお越しください。

日時 2月24日日曜日 3時半から
場所 京都工業繊維大学松ヶ崎キャンパス
60周年記念館2階 大セミナー室



コロキウムの概要

ゲスト：中島那奈子（ダンス研究者、ダンス・ドラマトゥルク）

- 15:30-15:45 中島さんの紹介
- 15:45-16:30 中島さんのレクチャー
- 16:30-16:40 休憩
- 16:40-17:00 京都工業繊維大学三木順子教授との対談
- 17:00- 全体討論

趣旨：2019年は、ドイツのヴァイマルに、デザイナーや建築家を育成する造形教育機関バウハウスが創設されて100年めにあたります。バウハウスで目指されていたのは、たんなる形の創案や機能の実現だけではありません。そこでのさまざまな活動の根底に流れていたのは、来たるべき新しい時代にふさわしい「人間性」の希求でした。例えば、バウハウスの舞台工房を率いるマイスターのオスカー・シュレマーは、斬新なダンス作品をとおして、人間の身体の新たな位相を開こうとしていました。本企画では、ゲスト・スピーカーの中島那奈子氏とともに、ダンス研究の視点から、バウハウス以降の100年をとおして人間は人間自身の身体をいかにデザインしてきたのかを尋ねます。



中島那奈子氏プロフィール

ダンス研究者、ドラマトゥルク、日本舞踊宗家藤間流師範名執藤間勘那恵。2007年よりドイツ学術交流会（DAAD）の支援を受けてベルリン自由大学で研究を行い、論文『踊りにおける老いの身体』で博士号取得。ベルリン自由大学国際研究センターフェローの後、愛知大学、尚美学園大学、京都造形芸術大学、ベルリン自由大学などで教鞭をとる。またドラマトゥルクとして、“Exhausting Love at Danspace Project”（振付ルシアナ・アーギュラー、2006～07年NY ベッシー賞受賞）「劇団ティクバ + 循環プロジェクト」（振付砂連尾理）“x/groove space”（振付セバステアーン・マティアス）、「イヴォンヌ・レイナーを巡るパフォーマンス・エクシビジョン」（京都芸術劇場春秋座）に関わる。編著に *The Aging Body in Dance* (Routledge, 2017)、共著に *Dance Dramaturgy* (Palgrave, 2015)、『スピリチュアリティと芸術・芸能』（ビングネットプレス、2016）。2017年北米ドラマ

トゥルク協会エリオットヘイズ賞特別賞受賞。2月に編著となる『老いと踊り』を勁草書房から出版予定。

